

筑波大学

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
アドミッションセンター TEL 029-853-7385
https://www.tsukuba.ac.jp/



筑波大学

University of Tsukuba



真の総合大学にふさわしい 教育システムを実現して 固定化した社会の変革に挑む

SUMMARY

筑波大学は、1872年に我が国で最初の高等教育機関として創立された師範学校から東京教育大学に至る歴史の上に、1973年、「新構想大学」として誕生しました。「開かれた大学」という建学の理念のもと「不断の改革」を進めています。

2023年には開学50周年を迎えた筑波大学は、さらなる50年（NEXT50）を見据えて「固定化された社会の変革」をミッションとして掲げ、真の総合大学にふさわしい教育システムの構築を目指しています。IMAGINE THE FUTURE.のスローガンのもと、地球規模の課題を解決する「知」を創出するとともに、それを牽引するグローバル人材を育成しています。



ながた しょうすけ
永田恭介学長

1976年東京大学薬学部卒業。専門は分子生物学。国立遺伝学研究所助手、東京工業大学助教授、筑波大学教授を経て2013年より現職。国立大学協会会長等を歴任。

01 「不断の改革」を実践し 筑波研究教育機構の設立へ

波大学は、あらゆる面で「開かれた大学」という建学の理念のもと、「不断の改革」を進めてきました。
「2040年度の18歳人口は現在の7割程度に落ち込みます。2025年2月に取りまとめられた、中央教育審議会の答申『我が国の「知の総和」向上の未来像〜高等教育システムの再構築〜』は、研究型大学については収容定員・資源を学部から大学院へシフトすることを示唆しています。世界のトップ大学と伍して卓越した教育研究、社会実装の推進に取り組む研究型大学である本学も、一部の収容定員を大学院へ移すことを考えなければなりません。」

大学には、教育、研究、およびそれを基盤とした社会貢献が求められています。研究学園都市で新構想大学として出発した本学は、先端的な研究教育拠点、知の国際連携活動拠点としてはもとより、つくばの人材育成拠点として、産官学協働の拠点として発展してきました。しかし、これからは固定化された社会そのものを変えていかないとはいけません。」

と永田恭介学長は話します。
その一つが、筑波研究教育機構（仮称）（T-REX）の設立です。

筑波研究学園都市には官民の研究機関が集積しており、その研究力を結集すれば世界のトップ研究大学を凌駕します。筑波大学は、これらの研究機関が参画するT-REXの設立を主導しています。

2026年3月28日には、T-REXの形成に向けた覚書を交わし、4月には連携大学院・協働大学院を一体的に支援する筑波共創推進局を発足させ、機構の設立に向けた動きを進めています。

02 2+4+3制の導入で リベラルアーツの充実

「A」の急速な進化は目を見張るものがあり、今やビジネス・社会の必需品となっています。物理的な身体を有するフィジカルAの普及が進めば、介護や家事もこなしてくれるでしょう。では、人は何をすればいいのでしょうか。我々は何を為せばいいのが、今まさに問われています。こうした背景の中だからこそ、大学の教育・研究の在り方について深く考えていかなければなりません」と永田学長が語るように、筑波大学は、「真の総合大学」にふさわしい教育に取り組んでいます。

例えば、「学士課程4年＋修士課程2年＋博士課程3年」という教育課程を、「2年（米国型リベラルアーツ）＋4または3年（メジャー）＋3年（アドバンストリサーチ）」制のカリキュラムに変革し、学士課程から博士課程まで体系的な教育体制にすることを提案し、それに向けた検討が続いています。

米国型リベラルアーツは、専門分野にとらわれない。例えば、「学士課程4年＋修士課程2年＋博士課程3年」という教育課程を、「2年（米国型リベラルアーツ）＋4または3年（メジャー）＋3年（アドバンストリサーチ）」制のカリキュラムに変革し、学士課程から博士課程まで体系的な教育体制にすることを提案し、それに向けた検討が続いています。

03 チュートリアル教育の 拡充に向けて

学独自の人づくりに向けた教育改革の取り組みで注目されるのが、「筑波型チュートリアル教育」です。24年度に総合科目「学問探究チュートリアル」がスタート、今年で3年目を迎えました。定員は学生40人、教員2人と学生2〜3人が組み、対話をしながら、「将来とつながりたいか」「大学で何を学びたいか」など、学生自身の興味・関心に基づいた個別指導によって学びを深めます。今後約10年をかけて全学に導入する方針です。

チュートリアル教育に関連して、筑波大学は総合型選抜を実施しています。受験時に学群・学類を決めるのではなく、文系、理系Ⅰ〜Ⅲという4区分で幅広く選抜します。1年次は「総合学域群」に所属して基礎科目や専門導入科目を学び、2年次から専門の学群・学類に移行します。さまざまな学問分野に触れて自身の興味・関心の解像度を上げていく方法はチュートリアル教育そのものと言えます。

04 国際性の日常化を実現し 教育・研究で世界と協働

外国人学生と日本人学生とが、切磋琢磨する国際的な多文化共修環境を創り出し、「国際性の日常化」を実現

PICK UP 2026年3月、「未来社会デザイン棟」が竣工

未来社会デザイン棟は、学生が主体となって運営する新たな共創拠点です。「開かれた大学」という筑波大学の理念を体現しており、オープンスペースの広い空間を大きなガラス張りや吹き抜けの高い天井で構成。床面積5,270㎡、3階建ての施設内には、最大300人収容するイベントホールを設置。企業が入居できる共同研究スペースは、企業の担当者と学生が直接コミュニケーションを取りながら、新しい事業や研究に反映することができる空間となります。シェアオフィスや会議室など、これまでにない大学内外の人々と協働できる、新たなハブ施設となることを目指しています。



永田学長は、「世界各地から多数の優秀な外国人留学生を確保できるよう入試やカリキュラムに改革していかなければなりません。日本人に対しても、固定化された社会を変革する」という意味から、新しい入試の導入は必須です。このため、近い将来には、多くの学類で面接・口述試験を導入する方針です」と説明します。研究面でも海外との協働が進んでいます。ワシントン大学、半導体のエヌビディア、ＩＴのアマゾン、さらにグルノーブル・アルプ大学と半導体のエアリキッドと筑波大学がパートナーシップに合意しています。また、筑波大学トランスフォーメーション機構では国内外の教育研究機関、企業との連携協力を推進し、エネルギーや計算機分野で世界水準の研究を実践。文系の分野では西アジア研究も進んでいます。

永田学長は「Ａが驚くべきスピードで進化している中で、人とは何かが問われています。筑波大学は、日本で最も広い分野を持ち、その分野の壁の低い学際性に富んだ大学です。文理を問わず、この大学で人について考える志をもった若者が来てくれることを待っています」と、受験生の皆さんにエールを送っています。

(1) 師魂理才で人材育成

1872年に日本で最初の高等教育機関として創立された師範学校から、東京教育大学に至る歴史の上に育まれた人材育成マインドが「師魂理才」である。親や先生のように人に接する心や人々をまとめる力を持ち、かつ合理的な問題解決の才能を持つことを意味している。この師魂理才をもって、グローバル人材を育成している。

(2) 学際創成学術院の開設

筑波大学では2027年度に「学際創成学術院（G-SIGMA）」の開設を予定している。ライフノベーション学位プログラム、ヒューマニクス学位プログラムに加え、創成法学学位プログラム、ソーシャルエコロシー学位プログラム、次世代エネルギー共創学位プログラムを設置し、望ましい未来を構想し実現する高度研究人材や高度専門職業人を育成する。



「学問探究チュートリアル」の授業風景